

April & May 2016
4.5月号
第222号
けんぞうしんぶん
研創新聞

住居の質を向上させ、感動的・地域産業の活性化・地域の首長との信頼を回復し
今、日本人に求められる「家を求める行為」の意識変革

昔も今も「家」を求める行為は生涯で最大の消費です。しかし、いつの頃からか、積極的に住まい方や暮らし方を考える人が少なくなってきました。家電や車・既製品と同じように流通商品・モノの捉え方です。家は気候・地形・風土の違う土地の上に建つ、現地での一品物。
本来、家づくりとは、家族の暮らしを快適で豊かにするための、様々な外部環境に適應する



技術の伝承、木造の大スパン構造。戦後の鉄が不足していた時代は大型建築物の殆どは木造トラス構造だったので、近年は皆無となりました。



大工の真髄は刃物を研ぎ、切れ味鋭いノミ・カンナ・ノコギリを自在に扱える感性の錬磨。

るように形や間取りを工夫しなければなりません。勿論、住む人のライフスタイルも家族構成も違います。先人たちは「こんな家に住みたい」「こんな暮らしをしたい」と各種職人と一緒に考えて、つくってきました。その家には共通の喜びと魂が籠ります。日本の伝統的技術は、多くの職人に分業化されています。材料の供給者、道具をつくる職人、設計士、等々、30数職種が連携し、手づくりが無視されています。近年は、既製の部品を組み立てる使い捨ての家づくりを改めるべきではないでしょうか。

今の家を仕立て直し、より永く、より快適に

五泉市、築60年の自宅です。かなり広いお宅ですが時代と共に生活スタイルが変わり使い勝手が悪くなっていました。
キッチンと居間が廊下を挟んで別々になっていましたが、一室のLDKに改装し対面キッチンにすることで、家族と過しながら料理ができるようになりまし。従来の居間は、来客用の部屋に作ることに



after



before

解体工事中。梁組がしっかりしているので、補強し天井高さを上げ、梁は見えるように改装。
広いダイニングキッチンだが、居間が離れているため使い勝手が悪かった。

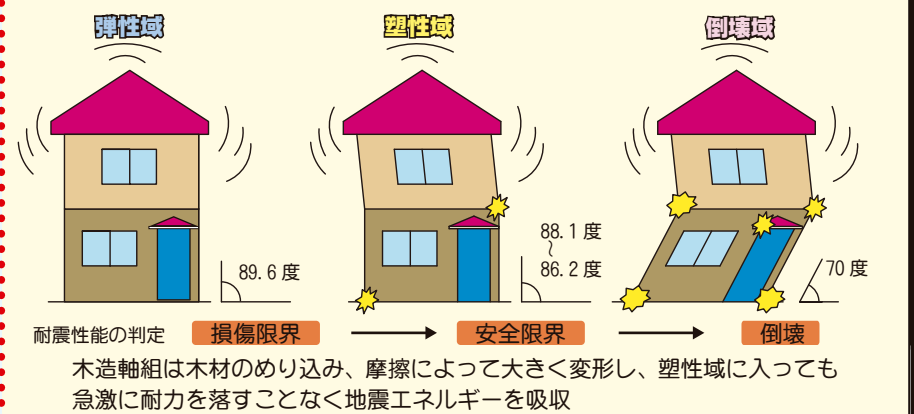
新建築新聞社「住まいの手引き」より
連続「木の構造と耐震性能の基本」Part7

同じ重さ・耐力の建物でも、地盤が軟ければ地震の揺れが増幅され、より大きな力がかかります。また揺れの大きさが同じでも、短い周期の地震には耐えられ、長い周期の地震には耐えられないことがあります。東日本大震災において、宮城県築館地区では最大加速度2700ガル(時速97.2km)という揺れを記録しました。しかし、木造住宅の全壊はほぼゼロ。周期0.3秒以下の小刻みな揺れが多かったために、瞬間的な大きな力が発生しても作用時間が短く、木造住宅を壊したり変形させたりするパワーが乏しかったからです。

「美」にこだわって「用」を「強」くする
家づくりの原点



木造の美の原点は構造即意匠、年数を経る程に醸し出す奥深さと自然との融合。



木造軸組は木材のめり込み、摩擦によって大きく変形し、塑性域に入っても急激に耐力を落すことなく地震エネルギーを吸収

読者の声や取り組みの投稿欄
お寄せください
共有する農業を目指して

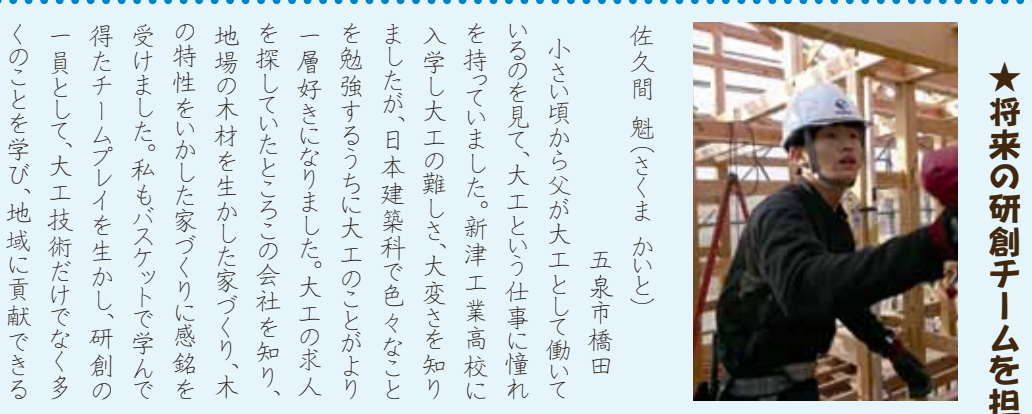
阿賀野市で農業を始めて今年で5年目になります。高校卒業後群馬県に2年間農業の研修に行き、その後農業を継ぐ事にしました。受け継ぐと言っても、自分でも何か新しい事を始めたいと思う、いろんな研修や農家にお話を聞いている時に試食で食べさせてもらったイチゴの味に感動し、「イチゴ」の栽培を始めたいと決めました。
現在ではハウス4棟9aの面積で栽培しています。7月後半からの苗の移植から始まり、ハウスへの定植、翌年1月から収穫を始め6月中旬頃で終わります。ほぼ一年中の栽培になるので、収穫が終わった果たしてこれが建築の進化と向上と言えるだろうか？おそらく違うだろう。という疑問が浮かんできます。今一度、日本建築の先人たちが探求してきた「用」と「強」が「美」によって統一する原点を振り返るべきではないかと思えます。
柱だけでなく梁、桁、垂木、全ての構造を表して用い、空間を構成しています。林業・製材・大工、職人たちの手を経て生まれた、自然乾燥の杉の無垢材は、色艶と香りが良く、丹念な仕事ぶりがすがすがしく、素直に美しいと感じる苦ではないかと思えます。

私たちの頭と心と技の見える家づくり
永く愛され100年住む家
株式会社 研創
〒959-2205 新潟県阿賀野市寺社246
TEL:0250-68-3212・FAX:0250-68-5271
http://www.kenso.info/
E-mail: info@kenso.info

以前は、ファンヒーターを2台使用しても寒かったのが、今年の冬はファンヒーター1台で過ごせました。キッチンカウンター下の収納も気に入っています。たくさん物が入り以前使っていた食器棚が不要になり部屋もスッキリし掃除がしやすくなったことが嬉しい。
大工さんを含め各業者さんのチームワークが良く、相談に乗ってもらいながら、工事を進められて満足しています。



before



佐久間 魁(さくま かいと) 五泉市橋田
小さい頃から父が大工として働いているのを見て、大工という仕事に憧れを持っていました。新津工業高校に入學し大工の難しさ、大変さを知りましたが、日本建築科で色々なことを勉強するうちに大工のことがより一層好きになりました。大工の求人を探していたところこの会社を知り、地域の木材を生かした家づくり、木の特性をいかした家づくりに感銘を受けました。私もバスケットで学んで得たチームプレイを生かし、研創の一員として、大工技術だけでなく多くのことを学び、地域に貢献できるように大工になりたいと思志望しました。

阿賀野市の「住宅リフォーム支援事業」

- 住宅の修繕、改修、一部改築、増築などの工事です。補助金額は工事金額の2割まで、上限30万円。多世代世帯に該当する場合は上限で20万円を加算。
- 平成28年4月11日～12月28日(予算枠に達した場合は受付を終了します。)
- 阿賀野市に居住の方、もしくは空き家をリフォームして定住される方。又税金や、下水道受益者負担金等の滞納の無い方(今年度から以前に本事業の補助を受けていても、上限額に達しない場合は対象になります。)
- 工事にあたって住宅用火災警報器の設置と下水道が使える地域では下水道への接続が条件となります

新潟県の「ふるさと越後の家づくり事業」

- 新築・増改築・リフォームの場合、越後杉ブランド認証材使用で10～40万円(木材の使用量により補助額が変わります。)
- さらに加算により最大99万円/棟の支援となります
- 加算条件①～④
 - ①若者・UIターン者、農林水産業新規就業者 10万円
 - ②県産瓦使用(屋根面積により) 上限20万円
 - ③県産畳使用(畳数の組合せにより) 上限10万円
 - ④しつこい塗り(施工面積により) 上限19万円
- 平成28年4月6日から(予算枠に達した場合は受付を終了します。)

※両事業共、その他様々な要件等がありますので、詳しくは当社にお問い合わせください。

中村 大那(なかむら だいな) 阿賀野市駒林
小学校の自由研究で貯金箱を作りました。細部のこだわりが完成したときの達成感から、私はものづくりが大好きになりました。高校では日本建築科に入學し、大工技能を学びました。自分のノミを研いだり、墨付け、加工をする中で将来、大工となって家を建ててみたいと思いました。研創新聞や知人の話からこの会社を知り、社長さんの話を聞く中で、私も研創のチームの一員として、自分の腕を磨き、一人前の大工として、人々の生活に役立ち、貢献したいと考え志望しました。